

[成果速報]

クビアカツヤカミキリの産卵阻止資材の検証

【背景】

クビアカツヤカミキリは、ももやさくらなどのバラ科樹木を加害する特定外来生物で、幼虫はフラス(幼虫のフンと木くずが混ざったもの)を排出しながら樹内に食入し、被害が進むと樹木は枯死に至ります(写真1)。当センターでは産卵阻止技術の開発を行っており、これまでの室内試験で、巻付処理(幹巻テープ、防草シート、0.3mm目合防虫ネット)、吹付処理(蛍光イエロー塗料、樹木保護用コーティング材)の産卵阻止効果を確認しています。



写真1 クビアカツヤカミキリ

(①：幼虫、②株元のフラス、③成虫)

そこで、樹齢5~13年の現地もも園において、主幹及び主枝部に5種類の資材をそれぞれ処理し、産卵阻止効果を検証しました(写真2)。また、阻止効果の高い資材については資材費を算出しました。



写真2 産卵阻止資材の処理(左：幹巻テープ、中：防草シート、右：蛍光イエロー塗料)

【結果】

無処理樹と比較すると、**幹巻テープ(94.8%)**、**防草シート(91.3%)**、**蛍光イエロー塗料(86.9%)**で産卵数を80%以上抑制し、**幹巻テープが最も産卵阻止効果が高い結果となりました(図)**。また、阻止効果の高い3種の資材について、資材費を算出した結果、防草シートが最も安価であり、次いで幹巻テープ、蛍光イエロー塗料でした(表)。

【今後の試験内容】

樹幹部に産卵された卵からふ化した幼虫の、樹内への食入の有無を確認するため、引き続き各処理区のフラス排出状況を調査予定です。また、処理した資材の耐久性についても確認していきます。

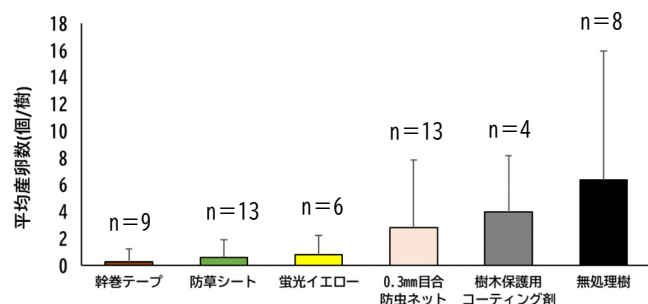


図 もも樹幹部分における平均産卵数(バーは標準偏差)
注 nは各処理区における供試樹数を示す。

表 もも1樹あたりの資材費

	供試樹数	幹直径(cm)	資材費(円/樹)
幹巻テープ	6	18.8~25.1	601
	3	31.5~36.3	1,202
防草シート	4	12.2~15.3	349
	3	12.0~14.8	365
	3	21.1~26.7	632
蛍光イエロー塗料	3	29.9~34.3	830
	4	16.6~19.1	837
	2	28.5~34.0	1,650